

Code Orange

—Save Life—

	代表者	木本	義敬 (医学B 4年)			
構成員	今井	智子 (医学B 6年)	岡本	彩 (医学B 6年)	柏原	彩乃 (医学B 6年)
	近藤	萌 (医学B 6年)	新庄	英梨子 (医学B 6年)	富永	和花 (医学B 6年)
	中島	京 (医学B 6年)	瀬戸口	尚登 (医学B 6年)	縄田	慈子 (医学B 6年)
	西田	拓人 (医学B 6年)	森	麻里母 (医学B 6年)	田村	有里 (医学B 6年)
	永久	成一 (医学B 5年)	佐村	美穂 (医学B 5年)	浜辺	龍太郎 (医学B 5年)
	河生	多佳雄 (医学B 5年)	矢田	祥子 (医学B 5年)	中嶋	亮介 (医学B 5年)
	西田	彩華 (医学B 5年)	上野	真帆 (医学B 4年)	大神	綾夏 (医学B 4年)
	木村	剛 (医学B 4年)	佐伯	晋吾 (医学B 4年)	坪根	咲里依 (医学B 4年)
	戸川	文子 (医学B 4年)	仲野	優 (医学B 4年)	水野	ちづる (医学B 4年)
	宮崎	由依 (医学B 4年)	高浜	麻衣 (医学B 4年)	鈴木	潤一 (医学B 4年)
	遠山	直弥 (医学B 4年)	小林	諭史 (医学B 4年)	佐藤	奈緒 (医学B 3年)
	堀江	ゆうか (医学B 3年)	飛田野	篤 (医学B 3年)	吉村	知佳子 (医学B 3年)
	薬師寺	真生 (医学B 3年)	板坂	美里 (医学B 3年)	山元	かなえ (医学B 3年)
	東	花奈子 (医学B 3年)	久保	直登 (医学B 3年)	川口	晃 (医学B 3年)
	下栗	佳那美 (医学B 3年)	當間	優生 (医学B 3年)	桃原	華 (医学B 3年)
	渋田	渚 (医学B 3年)	山中	雄城 (医学B 3年)	相内	志津子 (医学B 3年)
	酒匂	優嘉 (医学B 3年)	土肥	聖美 (医学B 3年)	金谷	妃呂子 (医学B 3年)
	久松	健人 (医学B 3年)	星澤	早紀 (医学B 3年)	恵美	拓也 (医学B 2年)
	高越	寛之 (医学B 2年)	上田	誠也 (医学B 2年)	堀	聖弥 (医学B 2年)
	加藤	幸多 (医学B 2年)	植村	愛子 (医学B 2年)	岡本	菜奈 (医学B 2年)
	倉田	こなつ (医学B 2年)	苅田	雅子 (医学B 2年)	朴	華永 (医学B 2年)
	馬場	悠花里 (医学B 2年)	清山	遥 (医学B 2年)		

1. 2015 年度を振り返って

今年度は「growth」をテーマに掲げ、①メンバー教育の充実②地域に根ざした団体をめざすことを重点に置いて活動を行った。メンバー教育の充実については、メンバーが近年増加している中、一度原点に立ち返り、なぜ私たちが活動を行っているのかを見つめ直した。そして心肺蘇生法の重要性について考え、質が高く・受講者の自信度を上げられる講習会を行えるようにしようと考えた。地域に根ざした団体を目指すことについては、昨年までの行事に加え BLS・First Aid ワークショップを開催し、対象を県内の学生とすることで地域の学生への普及を目指した。また、新たに山口市で開催されたツール・ド・山口湾にボランティアとして参加し、心肺蘇生法の重要性や私たちの活動を多くの県民の方知ってもらう機会を得た。メンバーと切磋琢磨して BLS の普及を目指して日々活動することができた。

2. 2015 年度の主な活動内容

- (1) 組織運営の引き継ぎ
- (2) 新規メンバーの募集活動
- (3) QCPR キャラバンへの参加
- (4) ツール・ド・山口湾 2015 での救護ボランティア
- (5) 2nd Yamaguchi BLS&First Aid ワークショップの開催
- (6) 部活動講習会
- (7) 七夕祭での BLS 講習会

- (8) ホームカミングデーでのブース展示
- (9) 医学祭での市民のための心肺蘇生法講座開催
- (10) 山口大学病院職員対象の BLS 講習会
- (11) FM きららカップ宇部駅伝競走大会での救護ボランティア
- (12) その他定期活動

3. Code Orange 内での活動

3-1 組織運営の引き継ぎ

本年度も昨年度からの体制を引き継ぎ、プロジェクト毎にプロジェクトリーダー（以下、PL）を設定し、その PL が中心となってプロジェクトを行っていった。PL は一つのプロジェクトにつき 2~3 人設定することで、一人一人の負担を少なくできる上、幹部メンバー全員が PL を経験することができ、幹部メンバーとしての自覚も高まると考えられる。

3-2 定例会・定練会

Code Orange では週に 1 度、昼休みの約 20 分間を使って、メンバー内での学習会を行っている。上半期の内容は、新メンバーが加わったということで、成人 BLS、小児 BLS、気道異物除去、体位変換を中心に、講義・実技を行った。そのほか、各イベントの報告・反省を行い、より良い講習会を作り上げるためにはどうすればいいのか、受講者アンケートの結果をもとに話し合った。

4. 医学部内での活動

4-1 部活動講習会

昨年度同様、本年度も医学部学務課からの依頼に基づき、学生自治会と共同で、医学部学生を対象に BLS を行った。今年度は受講者 61 名に対し、16 名の構成員が講習を行った。また昨年度までは部活の所属人数に関わらず、各部活から同じ人数が受講していたが、今年度は多い部活からは 3 名、少ない部活からは 1 名とするなどして、なるべく多くの 2 年生に参加してもらえるような工夫をした。4 月に新しく加入したメンバーもインストラクターとして多数参加し、練習会で身に付けた知識や経験を存分に発揮した。受講者のほとんどが BLS を行うのが初めてであり、この講習会を通して医学教育に貢献することができた。



胸骨圧迫を教えている様子

4-2 頌徳碑清掃

Code Orange では、サークル設立当初から月に 1 回頌徳碑の清掃活動を行っている。頌徳碑とは医学生の解剖学実習に対し、御献体して下さった方々の御遺骨が収められている場である。医学生として感謝の意を忘れてないという思いから、本年度も毎月 1 度清掃活動を行い、常に医学生としての自覚を持ち続けるようにした。

5. 医学部外での活動, 及び市民に向けた活動

5-1 QCPR キャラバン

今期の新しいイベントの一つとして参加したもので、第18回日本臨床救急医学会総会・レールダルメディカルジャパン共催で開催される、質の高いCPRを啓蒙するためのイベントである。5人1組で15分間CPRを行い、審査員のジャッジを受けた。自分たちの行ったCPRが客観的に評価され、どこができていない部分なのかを再発見できる良い機会となった。



QCPR キャラバンで評価を受けている様子

5-2 ツール・ド・山口湾 2015

こちら今年度新たに参加したイベントで、山口市阿知須で開催されたツール・ド・山口湾 2015 に救護ボランティアとして参加した。参加者がけがをした時や、緊急のときのために AED 救護班として待機したり、講習会を開いたりという盛りだくさんの内容であった。成人 BLS のデモを参加者約 300 人と山口市長の前で披露させてもらうなど、市民の方との交流会を増やすことができ、BLS の重要性を発信できたことは非常に良い機会となった。今まで宇部市を中心として行ってきた活動を山口市でも行うことができたことは、Code Orange の知名度が向上していると実感できた。



ステージでデモを披露している様子

5-3 2nd Yamaguchi BLS&First Aidワークショップ

2年前に初めて主催したワークショップの第2弾となるワークショップを行った。山口大学15人と他大学43人のインストラクターが集まり、受講者として参加した山口県内の学生が、成人BLSをはじめ、小児乳児BLSやFBAO、RICEや固定法などを学ぶワークショップとなった。県内の学生にBLSを普及させるだけでなく、他大学のインストラクターと交流できる貴重な機会となり、参加者と主催者の双方にメリットのある有意義なイベントとなった。



ワークショップでの集合写真

5-4 七夕祭

本年度も一般市民を対象としたBLS講習会と、BLSの基礎知識に関するクイズコーナーを設置した。小さな子供から年配の方まで幅広い年代の方々に対して講習を行った。特にクイズコーナーは好評で、楽しく学べるといった声が多かった一方、難易度に関しては簡単だという意見もあり、来年以降はより良いものに変えていきたい。

5-5 医学祭—市民のための心肺蘇生法講座—

11月7、8日に開催された医学祭において、市民のための心肺蘇生法講座を実施した。このイベントは、Code Orangeの中で最大のイベントであり、メンバー全員がインストラクターとなって医学祭に訪れた市民や学生に講習会を行う。今年は例年以上に盛況で、昨年の受講者数120人を超える158人が受講した。開催場所の変更により看板や大弾幕を目立つ場所に設置できたこと、初めてドクターヘリ展示とコラボして、BLSの手順が書かれたポケットマニュアル・オリジナルクリアファイルを展示場に訪れた200人に配ったことが宣伝効果となって、集客の大幅な増加につながった。例年は呼び込みによる集客が50%であったが、今年は88%が自主的に訪れた受講者であった。また、乳児小児BLSを希望する受講者が多く、特に子供連れの受講者は乳児小児BLSを希望した。今後は、乳児小児BLSの充実を図っていく必要があると感じた。



医学祭集合写真



医学祭講習の様子

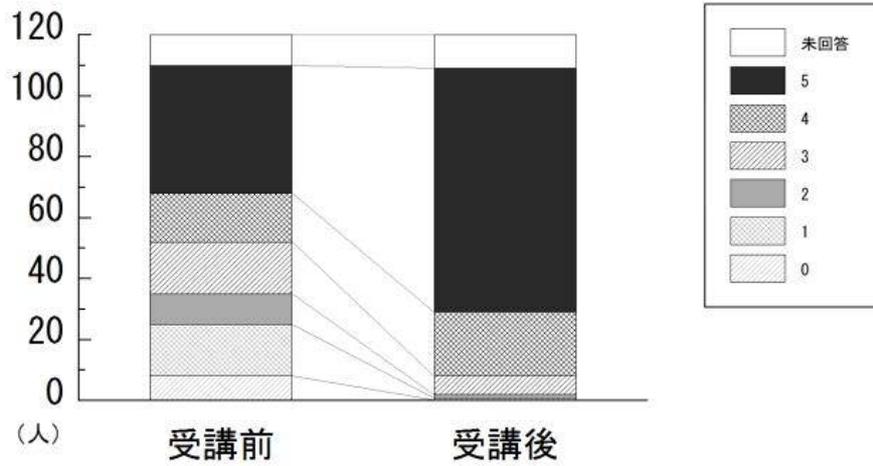


図1 医学祭アンケート「理解度の変化(5点満点)」(回答数 120 人)

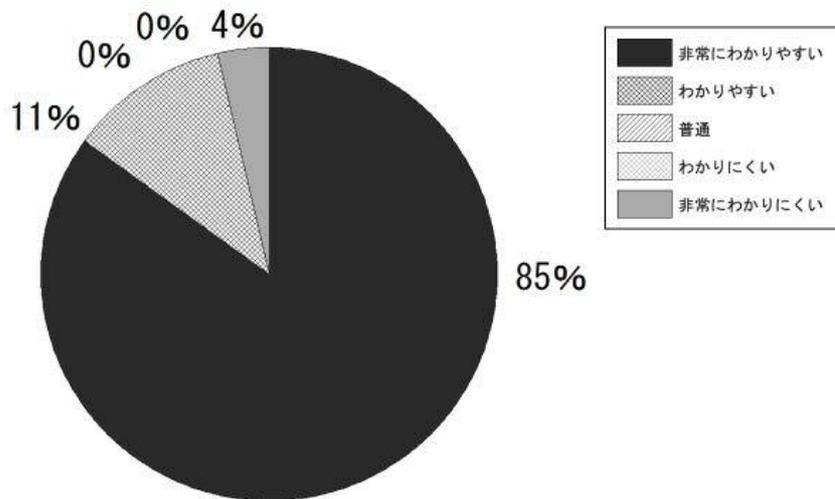


図2 医学祭アンケート「説明はわかりやすかったか」(回答数 120 人)

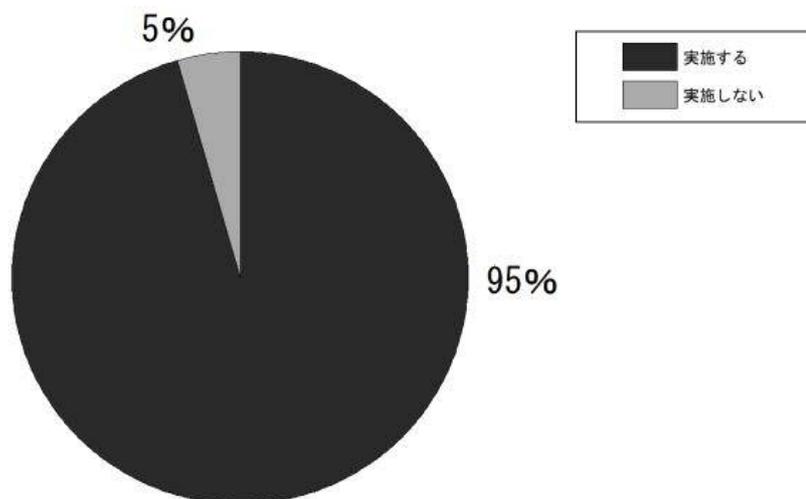


図3 医学祭アンケート「いざという時BLSを実施するか」(回答数 120 人)

5-6 山口大学病院職員を対象としたBLS講習会

1月～2月に山口大学附属病院で行われた、医師・看護師を除く総勢318人の職員を対象としたBLS講習会に講師として参加した。この講習会は今年で3年目を迎えた。患者の急変に出くわす可能性があるのは、医師・看護師以外の職員にもあり、その場合には迅速な対応が求められるということで、年々講習会の規模が大きくなっている。病院で従事する方々への講習も任せられるようになり、Code Orangeの活動が評価されていると実感するとともに、責任の重さを感じた。他人に教えるための準備を今後もしっかりとしたうえで、多くの人に講習を行っていききたいと思う。

5-7 FMきららカップ宇部駅伝競走大会—自転車救急隊ボランティア

2月7日に開催されたFMきららカップ第33回宇部駅伝競走大会にて、救護ボランティアとして参加した。このボランティアは毎年宇部市体育協会から依頼を受け、自転車救急隊として参加している。AEDと救急セットを背負い自転車でコースを周回して、選手のけがや万が一に備えた。また、本部の救護所で救急班として待機し、選手のサポート等を行った。今年は大きなけがをする選手もおらず、無事大会を終えることができた。また、本部に併設されたテント内で、市民に向けて救命講習を行った。駅伝に参加した選手やその保護者の方が講習会に参加した。Code Orangeの活動が地域の方に求められているということを実感できた。

6. 総括

今年度、山口大学は創基200周年を迎えた。今後山口大学が目指す方向は『地域と共に、時代と共に、そして世界へ』であり、方向性の一つに地域社会との連携が求められる。今年度、Code Orangeは「地域に根ざした団体」を一つの目標として活動を行ってきた。その中で、山口市で開催された地域イベントに新たに協力できたこと、山口県の学生を対象としたワークショップを開催できたことは、山口県に貢献したいという思いを実現していくきっかけとなったと思う。これまでも地域との交流は行っていたが、その活動は宇部圏内にとどまっていた。今後は活動範囲を徐々に広げ、山口大学生として地域の方々との交流を通して、日ごろの活動の成果を山口県に発信していきたい。それがCode Orangeの理念である「心肺蘇生法の県内普及」へつながると信じている。

Code Orangeの活動の成果というのは、目に見える結果として判断することは難しい。しかし市民による心肺蘇生法の実施は、心停止傷病者の社会復帰において大きな役割を果たすことがわかっている。日本における心臓突然死は年間5万人と言われる中、私たちは少しでも助かる可能性のある命を救いたいと思っている。今後もCode Orangeの活動を通して少しでも多くの市民に心肺蘇生法を広め、それが山口県内の救命率の向上につながることを切に願っている。